

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
平成30年 6月29日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地	
氏 名 宮崎精鋼株式会社	
代表取締役 宮崎 薫	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-361-2191	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	知多工場
事業場の所在地	愛知県東海市元浜町12番地
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	22：鉄鋼業
②事業の規模	22,245百万円
③従業員数	204人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	酸洗工程：廃酸→中間処理業者に委託して、中和処理し、その水は凝集し・脱水処理後、活性汚泥で生物処理をして、河川や下水道に放流。発生した汚泥は、セメント原料にリサイクルするが、出来ない汚泥は埋め立て処分

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) (管理体制図) 環境管理責任者 事業部長（廃棄物処理総括責任者） └─ (ISO 管理課) └─ 技術部 生産技術課 └─ 工場 職場管理責任者（特別管理産業廃棄物管理責任者）			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	排出量	967 t	t
	（これまでに実施した取組） ① 平成22年度に酸回収装置を設置、回収酸を再使用できるようにして排出量を削減した。 （排出量実績）平成21年度 2,709トン（設置前） 平成29年度 967トン		
②計画	【目標】（平成30年度）		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	排出量	900 t	t
	（今後実施する予定の取組） 2017年6月、廃酸を再利用する酸回収装置のトラブルが発生したため、120 tの廃酸を排出し、900 t／年以下の目標が未達となった。 【原因】 通常、晶析機で酸液を冷やし鉄分を結晶化させ、遠心分離機に流す仕組みになっているが、晶析機の底面の腐食により、結晶が底面に付着して熱交換が悪くなり、酸液が結晶化せずに遠心分離機に流れ、酸回収が出来なくなった。 【対策】 1年半毎（次回、2018年12月）に晶析機の底面を研磨加工で仕上げ、上記のトラブルを防止する。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成 29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	該当なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	該当なし		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成 29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
該当なし			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
該当なし			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成 29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成 29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	全処理委託量	967 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	967 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 有価物の引き取り量の拡大		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸、スラッジ	
	全 処 理 委 託 量	9 0 0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	9 0 0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	有価物の引き取り拡大		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。